

平成28年度 学校評価に対する最終報告書

石川県立七尾城北高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 授業改善を進め、個々の生徒に応じた指導による基礎・基本の定着を図る。	① ICT機器の効果的な活用等により、わかりやすい授業を実施する。	授業改善に取り組み、授業の内容が理解できる生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	B	後期アンケートでは「授業の目標や学習内容を理解できていると思う」生徒が89%で、前期より、6ポイント増加した。前期は各教科でICT機器を活用した研究授業、後期は互見授業を実施し、授業改善に努めたことが良かったと思われ、「わかりやすい授業を心がけていると感じる」96%と連動している。来年度は、さらにICT機器を効果的に活用して、わかりやすい授業を目指したい。
	② 生徒が学習に集中し、主体的に取り組むようにするため、発言や活動の場を設ける。	授業に積極的に取り組んでいると思う生徒の割合が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	B	後期アンケートでは「授業に意欲的に参加している」生徒が87%で、前期より、12ポイント増加している。「考える時間や発言の機会などがある」92%と連動してきている。前期アンケートで見られた“やらされている感”が少なくなり、興味・関心をもち主体的に授業に向かう生徒が増えたことが考えられ、このことを「試験などには準備し、成績の向上に努めている」60%の改善につなげていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		ICT機器を用いた分かりやすい授業への取組は、生徒の学習意欲だけでなくコミュニケーションスキルの向上にも繋がる。今後は少人数の特性を活かし、個性を伸ばすためのより効果的な活用方法を研究し、生徒の学習意欲向上に努めて欲しい。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		ICT機器を効果的に活用し、少人数の特性を活かした「個を大切にした授業」の実践に取り組み、生徒の達成感や基礎学力向上に向けた「わかる授業」を目指した授業研究に取り組んでいきたい。アルバイト等で家庭学習が不足している生徒に対し、理解度を高める授業改善や補習授業の充実等、継続的な学習を促す指導を今後とも取り組んでいきたい。		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2 学校生活全般を通して、自己肯定感を高め、社会で必要なルールやマナーの定着を図る。	① 各種教室（非行防止教室、薬物乱用防止教室、防犯教室）の開催により、生徒の規範意識を高め、ルールやマナーを守ることの大切さを意識させる。	ルールやマナーを守って学校生活を送っている生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	A	年度末に実施した生徒向け意識調査では、ルールやマナーを守って学校生活を送っている生徒の割合は46% ほぼ守っている生徒は54%で、前期末の調査と比べると合計5ポイント上昇し、生徒全員がルールやマナーの大切さを意識して学校生活を送っているという良い結果が得られた。 今後も継続した取り組みを行い、ルールやマナーを守ることが大切であるという意識を定着させていきたい。
	② 学校行事や生徒会活動等への参加により、集団の一員としての自覚を持ち、自己肯定感を高める。	学校行事や生徒会活動等に参加し、自分の役割を果たしたと感じた生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	A	年度末に実施した生徒向け意識調査では、自分の役割を果たしたと感じている生徒の割合は23%、ほぼ役割を果たしたと感じている生徒は62%で、合計85%となり、前期末の調査と比べると10ポイント上昇した。 今後も学校行事や生徒会活動等において、生徒主体となるような取り組みを増やし、生徒一人ひとりが集団の一員として活躍できる場を作っていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	丁寧で根気強い指導の成果がアンケート結果に集約されている。各行事とも社会人として必要な資質を育成するための講座であり、自己肯定感や達成感を高める指導やルールを守ることの大切さをより意識させる指導を今後とも継続して取り組んで欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	各種講話や行事を通じて一人ひとりが集団の一員であることを意識させ、他を思いやる心の醸成や遵法精神の向上へと繋げる指導を心掛けていきたい。また、毎日の情報交換会を通じて学校や家庭での情報を共有し、家庭と連携しながら協働して生徒の生活習慣の確立を目指していきたい。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3 キャリア教育を推進し、進路実現のためのロードマップの充実を図る。	① 就業やインターンシップ等の体験を通して、勤労観・職業観を育み、進路選択の能力を高める。	就業していない生徒で、アルバイトやインターンシップに取り組んだ生徒の割合が A 80%以上である B 60%以上である C 40%以上である D 40%未満である	C	インターンシップは2名の生徒で実施した。アルバイトは、短期間のものを含め8名の生徒が行い、全体で9名の生徒（41%）が就業を体験している。本校ではコミュニケーションスキルの向上が課題となっており、この点を踏まえて進路講話を実施した。企業見学は、生徒の進路希望を考慮し、製造業2社にお願いした。今後も個々の生徒の状況に応じたはたらきかけを進める。
	② 教育振興会と学校の繋がりを深めるため情報発信に努め、就職・アルバイトの支援を依頼する。	インターンシップ等を受け入れてもらった会員企業が A 7社以上である B 5社以上である C 3社以上である D 3社未満である	A	働きながら学校に通う生徒が減少している。そのため、会員企業と学校の繋がりを深めるため、総会の案内に合わせ、事業計画、予算書、学校だより等を同封し、インターンシップの生徒受入を依頼したところ7社から可能との返事をいただいた。今後も継続して支援していただけるよう情報発信に努めると共に、新規会員を増やす取組も進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		即戦力を求める社会の現状から、受入企業等を活用し、インターンシップやアルバイト就業などを通して、在学中に必要な資質や能力を身に付けさせて欲しい。 未内定で卒業する生徒に対し、長期にわたる支援や指導を今後ともお願いしたい。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		インターンシップや企業見学、体験学習や企業ガイダンス等に積極的に参加し、求められる資質や能力を意識させ、その育成に向けて就業支援機関と連携を取りながら取り組んでいきたい。 生徒一人ひとりの進路実現に向けて、教育振興会や地域企業から広く情報を収集し、進路実現に向けた指導を早い段階から計画を立て、効果的に進めていきたい。		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4 食に関する正しい理解と望ましい食生活の定着を図る。	① 給食を通して食の知識やマナーを集団的・個別的に指導する。 ② 保護者への給食体験を実施する。	献立や食材に興味関心を持って食事をしている生徒の割合が A 70%以上である B 50%以上である C 30%以上である D 30%未満である	B	給食時や休憩時における個別指導と保健だよりや掲示物での情報提供を行った。献立や食材に興味関心をもって食事をしている生徒は61%であり、前回より8ポイント増えた。 また、管理栄養士による「食育教室」を実施し、減塩指導を行った結果、生徒からは“塩分の取り過ぎに気を付けたい”という意見が多数あった。
学校関係者評価委員会の評価	食育指導は生徒への指導だけでなく、保護者へに対して啓発を図り、より多くの保護者に参加を促す取組をお願いしたい。家庭での食事内容について保護者と連携しながら、望ましい食事のありかたについて興味関心を深めて欲しい。 塩分に特化した食育教室は今後の食事の摂りかたについて非常に参考となる取組で評価できる。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	学校医の指導助言の元、生徒の体調管理面や栄養バランス、食事の回数等、基本的な食習慣の定着のため、来年度も管理栄養士による食育指導を予定している。また、家庭での食生活の実態把握のために保護者の参加を今以上に促し、学校と連携を取りながら、望ましい食生活のありかたについて指導していきたい。			